子どもの森通信

第２号　2006年６月
発行：特定非営利活動法人子どもの森
宮崎県東臼杵郡門川町城ヶ丘２－２
事務局 TEL/FAX：050-3427-1102
Mail：office@kodomonomori.info
http://www.kodomenomori.info

［５月西門川三ヶ瀬赤木地区の山にて撮影］

【和名】エゴノキ　【別名】チャノキ　ロクロギ　【科/属名】エゴノキ科エゴノキ属
【名前の由来】美しい花に似つかわない名前は、果皮がえぐい（えごい）ことに由来する。えぐ味は果皮に含まれるエゴサポニンと言う成分
花の時期（５月～６月）が終り、新緑の枝先に径1.5㎝の白い花が開花します。秋にはマル型の小さい果実が、多数たれ下がります。

森林を見つめ直そう

２００５年は、台風14号によって山間部に降った大雨が引き起こした大きな災害がありました。河川上流から流されてきた杉を中心とした流木は、重機が入ることのできない海岸においては、今も片付けられずそのまま放置状態となっています。ＴＲの五ヶ瀬川に架かる鉄橋の崩壊によりＴＲ運行営業が断念となり、地域沿線の人々の足が奪われました。また、北方町等の地域では、河川堤防を越える増水で、床上浸水した家屋が多数あり、現在も仮設住宅等で不自由な生活している人たちが居ます。

宮崎県の森林の７割近くは杉で被われていますが、そのすべてが健全に保全されてはいません。また、地球温暖化の影響で台風による雨が、局地的に大雨になるとも言われています。森林が多くの広葉樹で被われて、杉の山が健全であって、地球温暖化がなければ、台風14号による災害は起きていなかったかもしれません。

森林の生い茂っている樹木からは、大量の落葉がでます。落葉からは腐葉土が作られます。腐葉土は、降った雨をしばらく山に貯水します。その貯水された水はゆっくりと地下に浸透して、それから河川に流れ出ていきます。つまり、大雨が降っても急に河川が氾濫しないように天然のダムの役目をしてくれています。森林の環境破壊などで、このシステムが壊れることによって、山間部で降った大雨は、貯水されることなく河川に流れ出ます。そうすると下流の河川が洪水を起こすことになります。森林環境の保全は、大雨による災害の抑制にも役立っていくはずです。

私たちは森林環境を中心とした活動を通して、環境のメカニズムがとても大切なことだと学びました。環境を守る取り組みは、行政や人任せではなく、自分たちで実践していく必要があると感じました。私たちのやれる事や地域は地球規模においては微小ですが、すこしでも良い環境を残すためには必要なだと思います。このことは、次の世代を担っていく子どもたちへ、環境教育を通して伝えていかなくてはなりません。

NPOとは、Non Profit Organization（利潤を分配しない組織）の頭文字をとったもので、通常 民間非営利組織 と呼ばれています。株式会社や営利企業とは違い、収入から費用を差し引いた利益を関係者に分配せず、次の活動の費用にします。NPOとは、非営利活動を行う非政府、民間の組織です。　1995年に起きた阪神大震災で、NPOの活動が社会の注目を集めます。それをきっかけとし、1998年12月１日に特定非営利活動促進法(NPO法)が施行されました。

特定非営利活動法人子どもの森は、環境保全を図る・まちづくりの推進を図る・情報化社会の発展を図るための活動をしています。その中でも、地域や自然環境を守り、子供達が身近な里山や自然と親しみ、自然や命の大切さを体験を通して知る機会づくりに力を入れています。

2005年4月～2006年3月　活動フラッシュ

5～6月

みやざき森づくりボランティア協議会総会

5月14日「みやざき森づくりボランティア協議会（ロキシーヒルの圖師会長）」の平成17年度通常総会が、同協議会会員の「高千穂森の会」の興梠代表宅で開催。

早朝探鳥ボランティア

翌日の15日は、みやざき森づくりボランティア協議会として、全国野鳥保護のつどいのプログラムの一つ「早朝探鳥会」へ参加する方たちの安全確保等を目的とした引率ボランティアをしました。

【高千穂森の会】フィールド散策

バードウォッチング

6月11日（土）梅雨入りとなり、朝から雨が降り、バードウォッチングが中止となりました。バードウォッチングを前（5月21日）に、講師の日本野鳥の会宮崎県副支部長の猪崎悦子さんと、下見を兼ね、観察場所の五十鈴川河口に、どんな野鳥がいるかを調べてみました。普段何気なく見ていたのですが、20種類の野鳥が確認できました。

森林整備活動開始　6月26日

いよいよ森林整備の開始。まず、自生している木名の確認をしていきました。自生している木の種類の多いことに驚きました。

今日の作業は、枯れた木や萌木の伐採をしていきました。雑木林でやりたい事は、たくさんあります。まだまだ先は長そうです。伐採した萌木は、7月のクラフトプログラムで利用していきます。

7～8月

粉砕機始動

7月24日伐採していた（工作に使用できないい）枝を、粉砕機を使ってチップ化する作業をしました。初めて粉砕機（日本財団の助成）を使ったのですが、その威力にただただ感心するばかり。2時間位で、枝をチップ化できました。今回、粉砕した枝は、雑木林に蒔きました。

森の自然工作

7月31日（日）朝からの雷雨で、楽しみにしていたクラフト・プログラム（森の自然工作）は、中止となりました。昨日に準備万端整っていたのに…残念！

サンプル作品を作るために持ち帰っていた枝があったので、事務局と参加者2名とで、横山理事宅で、ミニ森の自然工作を行いました。昼からは雨もあがり暑い日となりました。半日早くばと、晴れた空を恨めしそうに眺めながら、工作に励んだ一日でした。

研修（チェーンソーの使い方

8月4日

研修場所：門川高校実習林

助成金で購入したチェーンソーの使い方を覚えるために、門川高校の間伐実習に参加させてもらいました。

9～10月

森林整備（ベンチ作り）

9月25日　間伐されて放置してあった杉でベンチを作成しました。8月にお習こなったチェーンソー実習が多いに役に立ちました。

森林整備（テーブル作り）

10月23日　しいたけのほだ木移動を終わらせ、午後から、前月に完成できなかった間伐した杉を使ってのテーブルを完成させました。釘など使わないつもりでしたが、そんな技術もないため、必要最小限の釘を使いました。ですので、強度もあまりなく、無理な力を加えると壊れそうです。でも、昼食やお茶休憩には充分です。

森づくり（ドングリ苗作り、治水の学習）

10月22日催し開催初の好天に恵まれ、子どもを含めた参加者27名で、森づくりプログラム（川と海に関する学習会兼ねる）を日向市ふるさとの自然を守る会との共催で実施しました。

子どもの森で整備している雑木林内には、多種なカシの木があります。子どもたちや保護者、全員でドングリ拾いをおこないました。今年は暖かい日が続いたせいか、ドングリの数も少なめで、拾うのに一苦労でした。小さいアラカシのドングリを中心に、拾って行きました。

〔講師〕森林インストラクターの大野裕さん

自然発生用ほだ木の移動

10月23日（日）　2004年にコマ打ちしたほだ木を、しいたけ収穫ができるように、自然発生用ほだ場に移動しました。

今年は、暖かい日が続いたので椎茸発生が遅れています。

＊＊会員募集＊＊子どもの森の活動に興味のある方は、会員になって一緒に活動しませんか！

ホームページ　WWW.kodomonomori.info

11～12月

シイタケ狩り

11月6日（日）

昨晩からの続いた雨は、準備中は止んでいましたが、しいたけ狩開始の10時前から再び降り始め、参加者14組延べ31人は、雨の中での収穫となりました。

わら草履作り

11月26日　会員限定で、藁草履作りの指導ができるようにと研修を実施しました。

森林整備（堆肥置き場作り）

12月18日（日）雑木林の整備で萌木を伐採した時のカシ等の枝を使って、堆肥置き場を作成しました。間伐した杉を柱に、萌木伐採したカシを壁に使い、1．5m×3mの堆肥置き場が完成しました。雑木林前の側溝に溜まっていた土と落葉や小枝などを堆肥置き場に集めました。

森林整備（歩道・階段作り）

約6mの傾斜歩道と約2メートルの梯子階段を完成させました。「日向市ふるさとの自然を守る会」からの応援が2名あり、おかげで、満足いく歩道と階段ができました。3月に予定している植林で、きっと必要な歩道と階段となります。

つる取り＆つる工作

12月4日（日）

参加者19名と「子どもの森」スタッフ4名は、車6台に分乗し、西門川赤木地区に向かって出発しました。

オリエンテーション後、近くの林道に、工作用のつる取りを1時間30分位かけて行いました。昼食後、つるを使って、籠・リース等を作りました。

1～2月

環境問題を考える講演会　2月4日

図を使って台風のメカニズムを学ぶ

UMK天気番組解説者で気象予報士の岩倉尚哉さんに、「地球温暖化と自然保護」と題して、講演をしていただきました。

面上昇により国土水没の危険性がある南太平洋の島々の話や台風の大型化、北極の氷河減少、宮崎市と五ヶ瀬町の平均気温の上昇、局地化する雨等、地球温暖化が進んでいることについて話がありました。

みやざき森づくりボランティア協議会「森づくり研修」

2月18日

研修場所…宮崎大学田野演習林

「みやざき森づくりボランティア協議会」で、森づくりの研修が開催されました。

シイタケ駒打ち体験（五十鈴小学校）

2月28日（火）総合学習の時間を使って、子どもたちが町内の暮らし（農林水産業と環境の）学習の一環として、椎茸のコマ打ち体験を行いました。コマ打ち体験したのは、4年生（現5年生）の子どもたち50数名です。

最初に、西門川で林業に従事している河野さんから、林業の話と椎茸栽培の話をしてもらいました。その後6班に分かれて。ドリルを使って原木にコマ穴を開けて、金槌でコマを打ち込んで行きました。1人が2本の原木にコマ打ちを行いました。子どもたちは、目をキラキラさせ一生懸命に穴あけとコマ打ちをしていました。原木は、仮伏せから収穫までを小学校運動場の裏山で行います。収穫までの原木は、子どもたち自身が見守って行くことになります。

3月

雑木林整備（薪づくり）

3月14日昨年夏に萌木切りをしていた枝で、粉砕機でチップ化できない太目の枝を薪に加工（チェーンソーで30、40cmにカットするだけですが）しました。おかげで、雑木林内に無造作に放置していた枝のほとんどが無くなり、すっきりと整備されました。

植樹

3月26日

地球温暖化防止と荒れた森林の保全を目的として、杉伐採地後の私有地に、センダン・イチイガシ・ホルトノキ・スダジイ・ヤマボウシ・ヤマモモ・イロハモミジ等の広葉樹を植樹しました。植樹した苗木は、四季の森づくり支援事業から受けました。山鍬、スコップは、宮崎北部森林管理署（日向市）から貸していただきました。

植樹地は、杉と広葉樹の複層林となります。朝から曇り空模様で、天気を心配しながらの植樹開始、途中雨足も激しくなるアクシデントもあり、約1時間の植樹となりました。

植樹後は、当会が用意した豚汁と椎茸を焼いて、参加者持参のおにぎりで昼食をとり、植樹記念碑に、参加者が自分の名前を記入してもらいました。

参加者は、ボーイスカウト延岡第4団

門川高校	7名
MFV会	6名
大学生	1名
高校生	1名
会員	7名

【平成 18 年度活動計画】

月	事業名	予定日	場所	備考
4	通常総会	H18.4.22（土）	門川町中央公民館	
5	雑木林の整備	H18.5.28（日）	三ヶ瀬フィールド	
6	しいたけ原木本伏せ作業	H18.6.13（火）	五十鈴小学校	
	森づくりボランティア協議会総会	H18.6.18（日）	ロキシーヒル（西都）	
	バードウォッチング（午前中） 五十鈴川河口周辺清掃活動（午後）	H18.6.24（土）	文化センター周辺	講師：猪崎悦子氏 日本野鳥の会宮崎支部副支部長 一般公募
7	雑木林の整備	H18.7.2（日）	三ヶ瀬フィールド	デイキャンプ準備
8	デイキャンプ（&クラフトプログラム）	H18.8.12（土）	西門川三ヶ瀬	ネイチャーゲーム フェニックスネイチャーゲームの会に依頼 一般公募
9	雑木林の整備、育林	H18.9.3 （日）	三ヶ瀬フィールド	
	ほだ場作り（05 年本伏せ分）	H18.9.17（日）	ほだ場	
10	しいたけ収穫	H18.10.22～	ほだ場	会員
	雑木林の整備	H18.10.22(日)	三ヶ瀬フィールド	
11	どんぐり拾い（苗づくり）	H18.11.5（日）	三ヶ瀬フィールド	一般公募
	雑木林の整備	H18.11.26(日)	三ヶ瀬フィールド	
12	蔓工作	H18.12.3（日）	西門川	一般公募
1	雑木林の整備	H19.1.28（日）	三ヶ瀬フィールド	
2	環境プログラム　講演会	H19.2 .4（日）	未定	一般公募
	しいたけ栽培体験	未定	小学校に交渉	助成金が決定した場合実行
3	雑木林の整備	H19.3.25（日）	三ヶ瀬フィールド	

＊＊＊子どもの森新シンボルマーク紹介＊＊＊

高千穂町在住の戸高真紀さんに作成していただきました。KODOMONO MORIとかいた部分は、腕にみたてて葉っぱを持ち上げているところです。今年度作成の役員名刺に使っています。

◎森林整備事業（雑木林の整備）
◎植樹する場所があれば、植樹を検討する。
◎「棚田復活プロジェクト」調査活動。
◎椎茸本伏場・ほだ場は、定期点検を実施する。
◎活動の情報発信のために Web ページの運営と広報紙の発行。
◎他に「みやざき森づくりボランティア協議会」の活動があります。

自然のマナー

創刊号の表紙を飾ったイイギリの木が心無い人によって枝を切られてしまいました。見事な枝ぶりで、「表紙にはこの木を」と思い季節ごとに写真を撮ってきました。ところが、今年の初め頃？見事に切断されていました。あの台風14号にも実を落すことも、枝が折れることもなかったイイギリの木。枝先の実だけをとるだけならまだしも再生不可能な状態の伐採に、持ち主もがっかりされていて、私たちもまさかこんなことをする人がいるとは思ってもいませんでした。

森林は、癒やしの場であったり、地球温暖化防止に一役かってくれています。そして、「森には必ず持ち主がいる」ということを考えてほしいものです。森林の中ではきれいな花や珍しい動植物に出会うでしょう。持ち帰ってみたいと思うでしょうが、森の生態系はデリケートなバランスで成り立っています。

森林から私たちはいろいろな恩恵を受けていること、森には持ち主がいることを思えば守らなければいけないマナーがあることも理解していただけると思います。

昨年のように、みごとな枝ぶりとたくさんの実を生らすことはできないでしょう。

それでも、イイギリの木は、今年もその切られた枝から新しい芽を出し、私たちにまるで、語りかけているようです。

「森によようこそ」と…

何箇所も切断されたイイギリ

編集後記

本当に一年が経つのが早いです。今年も通信の作成の時期となってしまいました。

十七年度の活動は、助成金を受け機材の購入ができ活動の幅も広がってきました。

森林の整備、植樹、環境プログラムと皆様のご協力で実現できました。ありがとうございました。

その中でも、植樹は、四百本の常緑・落葉広葉樹を植えることができました。

森づくりは、適地適木と言われています。しかし、樹木を見極めることは難しいものです。まだまだ、知識と経験が必要なことを実感しました。

十八年度は、初めての試みとして、デイキャンプを行います。非日常的な活動として、薪でのあぶり焼きソーセージ作りと飯盒でのごはん焚き、また、五感を使って自然を直接体験していくネイチャーゲームなど多彩な企画を予定しています。

皆様の参加をお待ちしています。

純